

## 平成 23 年度事業報告

我が国の経済は、東日本大震災やタイ洪水の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、景気は穏やかに持ち直しているとみられています。一方で、欧州政府債務危機の影響、原油価格の上昇、これらを背景とした海外景気の下振れ等によって、景気が下押しされるリスクが存在するといわれ、企業の業況判断は、先行きについて慎重な見方をとっていると思われます。また、企業の景況については、円高による採算性の悪化、コストダウン要請の強化、原材料価格の上昇に加え、今後に予定される電気料金の値上げの影響など、先行きに多くの懸念を抱えた状況が今後も続くと考えられます。

食品業界においても、厳しい景況の中、原発事故に伴う食品の放射能汚染問題やエネルギー問題、原材料・資材価格の問題など、大きな課題が山積み、継続している状況です。平成 23 年は家計消費支出が -2.5%、食用消費支出が -1.3% と前年を下回り、消費者物価指数は横ばい傾向となっているなど厳しい状況が続いています。

このような状況の下で、加工米飯の 23 年の生産動向（社団法人食品需給研究センター 調査）を見ますと、生産量は 264 千トンと前年を 15.8% 上回り、その内訳を見ますと、包装米飯のうち、無菌包装米飯が 110 千トン、対前年比プラス 10.8%、レトルト米飯が 27 千トン、対前年比プラス 43.0% と大幅に増加しています。無菌包装米飯はこれまでも年々増加する傾向にありましたが、会員各社の製造・販売努力に加え、東日本大震災の被災者への緊急支援食糧として活用されたことや消費者の防災意識の高まりに伴う非常食としての需要の増加、及び新しいユーザーのリピートが高くなったことなどが要因となり、今後も市場は高い伸長が期待されております。

このような状況下において、当協会では、これまでと同様に包装米飯の消費者への啓蒙普及・広告宣伝に関する事業、包装米飯に係わる各種情報収集・伝達に関する事業、及び包装米飯の安全性に対する調査・研究に関する事業を実施してまいりました。

以下に本事業年度の主たる事業概要を報告いたします。

1. 包装米飯消費者啓蒙のための協賛・広告宣伝事業

- ・第50回農林水産祭 実りのフェスティバル（平成23年11月4日～5日）への出展、試食、アンケート調査を実施
- ・「子供霞が関見学デー」（平成23年8月17日、18日）の一環として設けられた農林水産省の展示コーナーに包装米飯を紹介したパネル及び会員から提供して頂いた包装米飯19種類を展示

2. 各種情報収集・伝達事業

- ・農林水産省、厚生労働省、消費者庁などからの情報、資料の収集、伝達

【参考資料】

加工米飯の種類別生産動向

単位:トン、%

		レトルト	無菌包装	冷凍	チルド	缶詰	乾燥	合計
	平成20年	18,701	98,399	132,052	3,887	1,184	4,399	258,622
	21	19,910	97,982	99,110	3,026	1,394	4,208	225,631
	22	18,739	99,409	100,936	3,304	1,279	4,287	227,952
	23	26,800	110,139	117,089	3,557	1,030	5,405	264,020
対前 年 増 減 率	21	6.5	▲ 0.4	▲ 24.9	▲ 22.2	17.7	▲ 4.3	▲ 12.8
	22	▲ 5.9	1.5	1.8	9.2	▲ 8.2	1.9	1.0
	23	43.0	10.8	16.0	7.7	▲ 19.5	26.1	15.8

資料:21年1月以降 食品需給研究センター調査